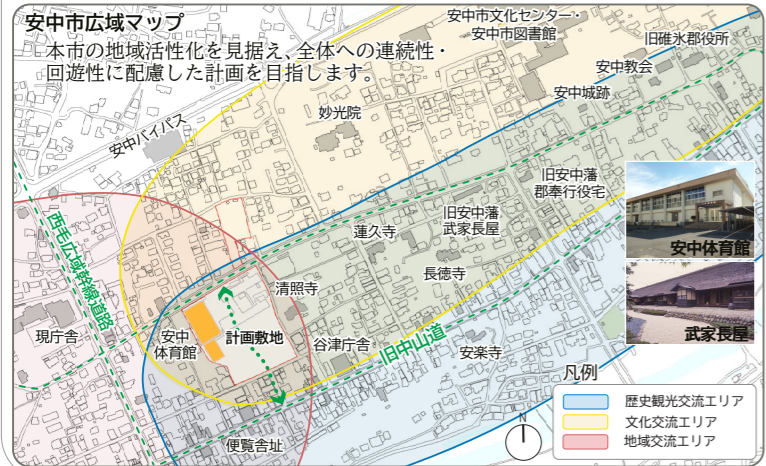


## 敷地利用計画

### (1) 敷地の利用計画

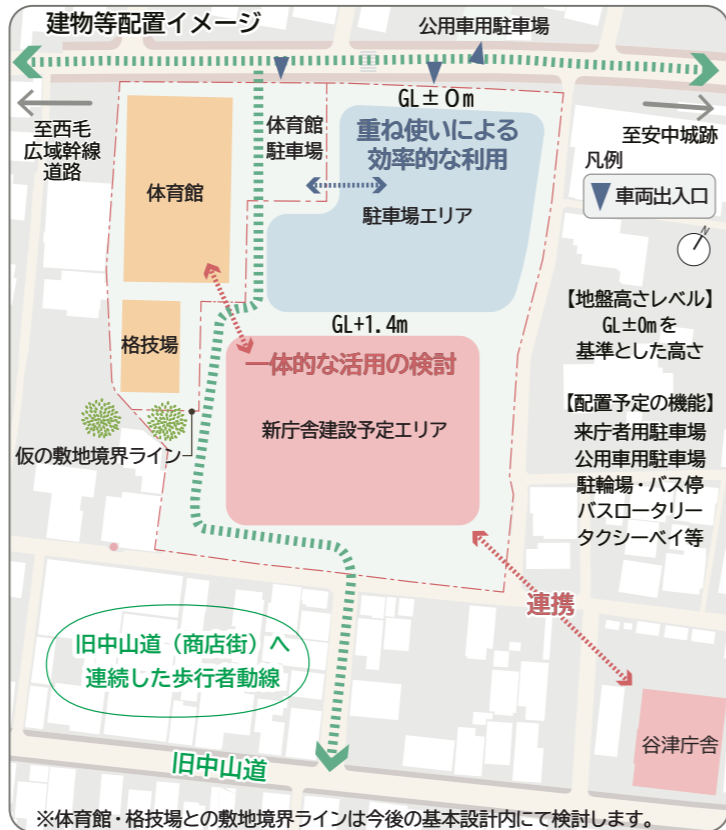
新庁舎に必要な敷地面積は、基本構想で示した約12,700㎡(建設計画地北側市有地は除く。)とします。なお、敷地の利用に当たっては、主に次の点に配慮し、今後の設計の段階において、より精査を加えるものとします。

- ①建設計画の方針  
旧安中高校跡地を活かした建設を行い、既存体育館、格技場との一体的な計画を目指します。
- ②地盤面計画  
敷地内で高低差があるため、利用者の円滑な移動に配慮します。
- ③建物配置計画  
敷地を最大限に有効利用できる合理的で効率的な建物配置や形状を検討します。
- ④既存体育館・格技場の活用計画  
日常的にも、災害時にも庁舎との機能連携を図ることで敷地一体の利便性の向上を目指します。
- ⑤外構整備計画  
既存体育館、格技場との一体利用を見据えた外構整備を検討します。
- ⑥まちづくりの核となる拠点計画  
新庁舎建設後の地域活性化・観光業の発展を見据えたまちづくりの拠点となる計画を目指します。



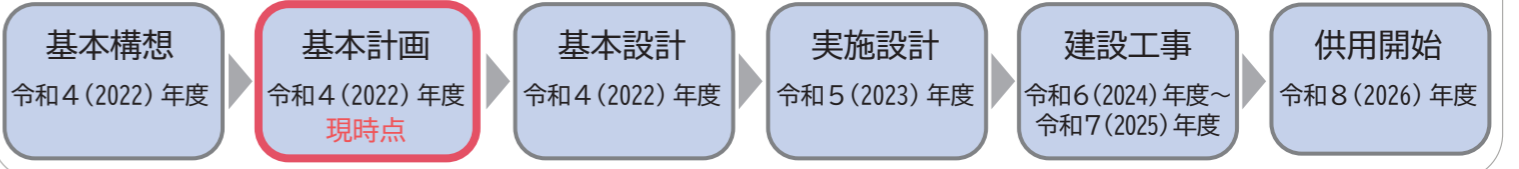
### (2) 建物等の配置

- ・新庁舎はグラウンド側に配置し、駐車場エリアは緩やかな勾配を計画することで高低差を解消します。
- ・駐車場は約160台(来庁者用)とします。
- ・新しいまちづくりに寄与するよう、安中体育館・格技場を活用しながら、市民利用の利便性を図り、周辺商店街の活性化を図ります。



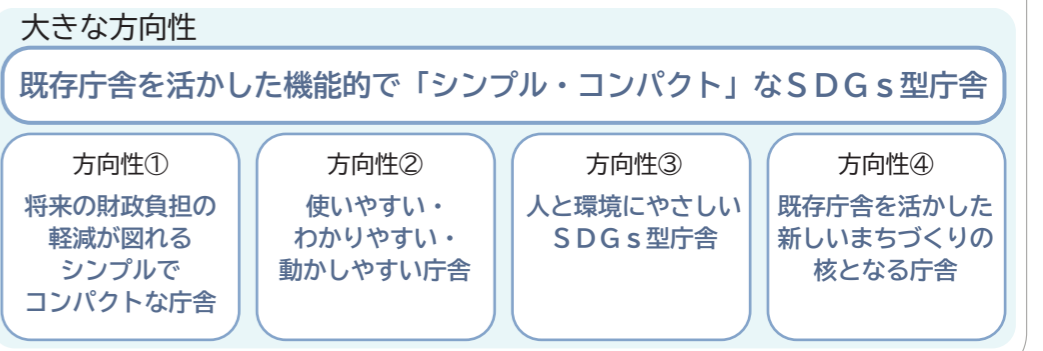
## 基本計画の位置付け

この基本計画は、「安中市新庁舎建設基本構想」を踏まえ、新庁舎の建設に向け、求められる機能を具体化し、計画の方向性や整備内容に関する基本方針などを示すものです。今後、設計を進める上で、より詳細な検討を行う際の必要な方針や諸条件を示し、新庁舎建設事業を着実に推進します。



## 新庁舎建設における方向性

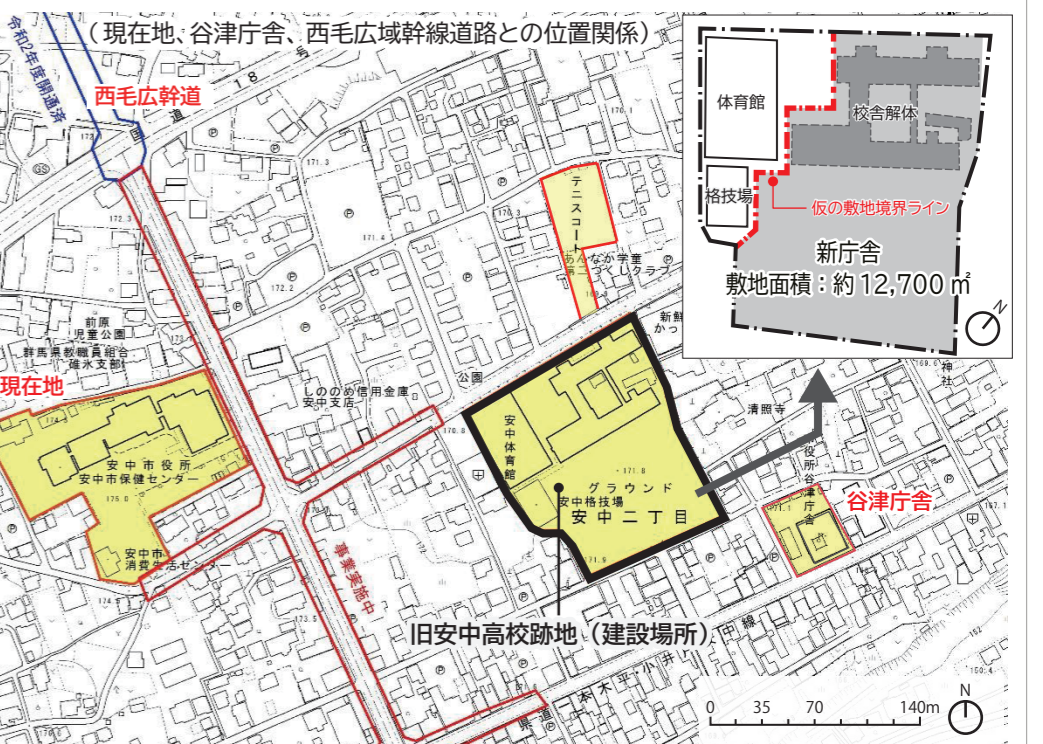
市民の声等を尊重し、市における精査を踏まえた結果、機能的でありながらも、可能な限り建設費を抑えられるシンプルでコンパクトな建設規模や構造を採用し、将来の財政負担を減らすことを最優先としつつ、環境に配慮し、既存庁舎も活かした、新しいまちづくりの核となる庁舎の建設を目指します。



## 建設場所と建設規模

### (1) 新庁舎の建設場所

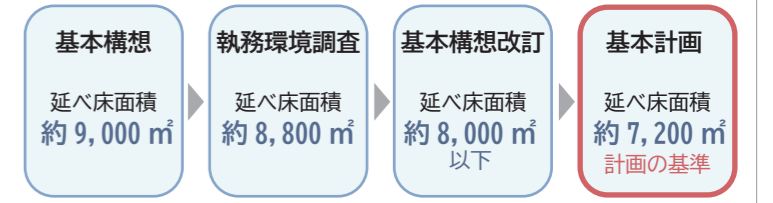
新庁舎の建設場所は、旧安中高校跡地としました。この場所は、庁舎へのアクセス動線や緊急車両の乗り入れなど、利便性・安全性への向上に貢献できると考えています。体育館および格技場は、引き続き日常時の活用、災害時の避難所として活用します。また、新庁舎との連携も図り、公共施設の利便性を確保します。



- #### 建設場所の概要
- 敷地面積: 約12,700㎡(仮)
  - 北側テニスコート敷地: 約2,940㎡、安中体育館・格技場敷地: 約4,240㎡を除く
  - 所在地番: 群馬県安中市安中二丁目2926番1
  - 用途地域: 第2種住居地域
  - 建ぺい率/容積率: 60%/200%
  - 前面道路による容積率制限: 0.4

### (2) 新庁舎の建設規模

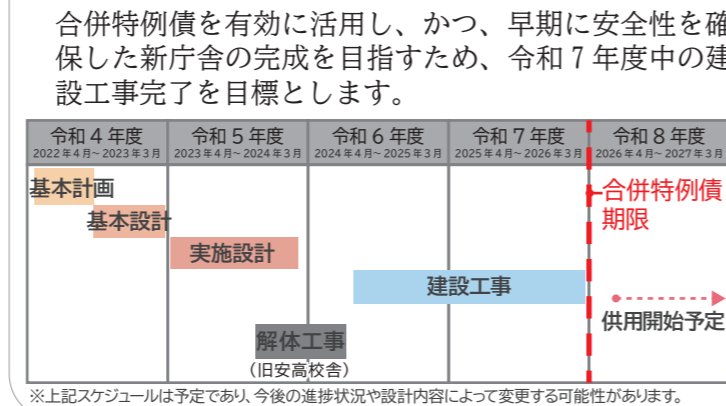
- ①延べ床面積  
基本計画では、将来の財政負担が軽減できるシンプルでコンパクトな庁舎を目指すため、基本構想改訂時から更なる執務面積の効率化・電子化・ペーパーレス化を図り、新庁舎の延べ床面積7,200㎡を基準に計画を進めます。
- ②建物の高さ  
建物の高さについては、周辺の家屋等への日影の影響や圧迫感を軽減させた計画とします。建物の必要な機能を満たし、日影の落ち方も検証しながら、適切な建物の高さを設定します。



## 概算建設工事費・財源

- (1) 概算建設工事費  
新庁舎の延べ床面積を7,200㎡としたところ、建物規模に基づき算定される事業費は、本体工事費 約37.8億円(解体工事等別途)となりました。
- (2) 財源  
財源は、基金・地方債・一般財源で賄います。庁舎建設基金や地域振興基金を活用し、合併特例債や緊急防災・減災事業債の活用を目指し、市の財政負担の軽減を図ります。
- (3) 補助金等の活用  
地球温暖化対策等への推進に対して交付される国の補助制度の活用も検討します。

## スケジュール



## 新庁舎建設後における他庁舎等の活用

- (1) 谷津庁舎・松井田庁舎の利活用  
谷津庁舎の倉庫等となっているスペースを執務室として活用、松井田庁舎は今後も支所機能を維持しながら、有効に活用することで、新庁舎の建設規模や事業費の縮減を図ることができます。
- (2) 既存庁舎の利活用  
現庁舎敷地の一部の建物が解体されるとまとまった広さの敷地が確保できます。将来の賑わいの創出など様々な可能性の検討を行い、市の活性化に貢献できる計画とします。
- (3) 既存建物(体育館・格技場)との連携  
新庁舎が隣接して配置されることから、通常時および災害時における連携手法を探り、計画の詳細を検討します。

## SDGsへの取組み

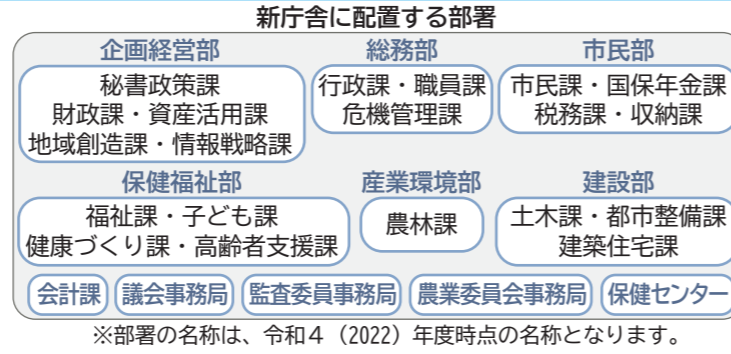
#### 具体的な対策の一例

- 5 ジェンダー平等を実現しよう**  
ジェンダーに配慮したトイレ設備環境を整え意識啓発を強化する。
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**  
省エネ技術や再生可能エネルギーを活用した環境配慮型庁舎を目指す。
- 11 住み続けられるまちづくりを**  
災害に対して強靱であり、誰もが安全で持続可能な庁舎として整備する。
- 13 気候変動に具体的な対策を**  
気候変動による自然災害にも対応でき、情報の発信・啓発できる庁舎を整備する。

## 新庁舎の構成

### (1) 新庁舎に配置する部局等

現状の課題を解決するため、既存庁舎を活かしなが  
ら庁舎機能を充実させ、市民の利便性の更なる  
向上及び効率的な行政運営の維持を目指します。  
将来を見据えた部局等の配置における柔軟性、セ  
キュリティ対策、まちづくりへの波及効果、建設  
コストの縮減など、様々な観点から検討し、現時  
点における部局配置を右のとおりとしました。



### (2) 新庁舎に導入する機能

#### ① 窓口機能

市民の利便性の向上を図り、誰もが快適で安全に利用で  
きるよう機能的な窓口環境の整備、バリアフリーやユニバ  
サルデザインの積極的な導入を目指します。

**検討例：**可変性・拡張性のある窓口、案内表示、プライバ  
シー保護に配慮した窓口、快適で効率的な待合環境



小諸市役所 窓口カウンターの場合 総合案内所 待合・窓口 上田市役所

#### ③ 防災機能

災害発生時に関係機関と連携し円滑な災害対策活動や情報の  
収集・共有・発信ができるよう必要な設備・機器類に対応

**検討例：**BCP（業務継続計画）対応への取組み、災害対策  
本部機能の充実、情報通信・発信機器の強化



観音寺市役所 災害対策室兼会議室の場合 鈴鹿市役所 災害対策本部の場合

#### ⑤ ユニバーサルデザイン

シンプルな平面計画等、ユニバーサルデザインを導入し、高  
齢者や障がい者をはじめ、来庁者や職員の誰もが快適で安  
全に利用できる庁舎とします。

**検討例：**わかりやすさ、移動しやすさ、多様な利用者への配慮、  
利用者に配慮した駐車場



上田市役所 わかりやすい案内サイン例 城里町庁舎 庇のある移動しやすい動線の場合

#### ⑦ 維持管理機能

建物の長寿命化、維持管理費用、修繕や更新費用などのラ  
イフサイクルコストの縮減を考慮した経済効率の高い庁舎  
を目指します。

**検討例：**建物の長寿命化、組織変更等に対応できる柔軟性・  
可変性の確保、メンテナンスのしやすさへの配慮

#### ⑨ DXシステム機能

マイナンバーカードやスマートフォンを活用した申請手続き  
の簡素化、窓口予約ができるシステム等の導入を検討します。

#### ② 行政事務機能

時代のニーズに呼応した行政サービスを提供するため、業  
務に関連が深い部局を集約しながら適切な会議室や収納ス  
ペース等を配置し、効率の良い執務環境を目指します。

**検討例：**執務空間、会議室等、書庫・収納スペース

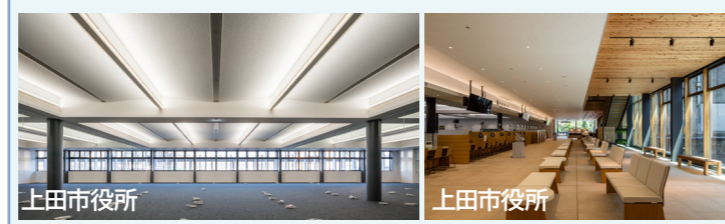


観音寺市役所 執務室の場合 ユニバーサルレイアウトの場合

#### ④ 環境負荷低減機能

環境負荷の低減を図り、SDGs の理念や脱炭素等、環境  
に配慮した機能を整備します。

**検討例：**再生可能エネルギーの利用、省エネルギー対策、  
県産木材の活用による市民に親しまれる施設



上田市役所 空調・照明を一体とした省エネ対策の場合 上田市役所 地元産木材を活用した場合

#### ⑥ 議会機能

議場の雰囲気が明るく開放的で、気軽に足を運べるよう  
な動線とし、議場を使用しない時期については、市民がホ  
ール等として活用できるような設計を検討します。

**検討例：**傍聴席、ユニバーサルな議場、議会関連施設



新座市役所 明るい議場の場合 五ヶ瀬町役場 多目的利用が可能な議場の場合

#### ⑧ セキュリティ機能

執務スペースや通路等のゾーニングを明確にするととも  
に、カウンター形状や配置を工夫することでセキュリティ  
機能を高めます。  
庁舎閉庁時の延長窓口や休日窓口の際、業務エリアとは明  
確に区分された動線を確保することを検討します。

#### ⑩ 感染症対策機能

感染を拡大するリスクが高い状況を避けるため、「非密閉」  
「非交差」「非接触」を最大限考慮し検討します。

## 新庁舎の構造

### (1) 新庁舎に求められる耐震性能

新庁舎は、災害時においても防災の  
司令塔としての機能が果たせるよ  
う、十分な耐震安全性を備えた施設  
とするため、「官庁施設の総合耐震・  
対津波計画基準」に定める安全性能  
の目標において、最高水準の耐震性  
能の確保を検討します。

### (2) 新庁舎の構造形式

新庁舎は、市民の安全・安心な暮ら  
しを守るため、大規模地震が発生し  
ても倒壊しないことはもとより、被  
災後、救援活動の拠点として直ちに  
災害復旧業務に着手できるように、  
庁舎機能を保全する耐震性能が求め  
られます。

耐震性能を確保するための構造形式  
は、「耐震」「制振」「免震」があり  
ますが、新庁舎では建設コストを最  
も抑えることができる「耐震」を採  
用し、地震の揺れに影響のない低層  
建物とします。

構造形式	耐震構造	制振構造	免震構造
概念図			
概要	建物の骨組みを強化し、地震の揺れに耐える構造	制振装置により地震エネルギーを吸収して揺れを低減し、構造体の損傷を防ぐ構造	建物と基礎の間に免震装置等を配置し、地震の揺れを直接建物に伝えない構造
コスト*	1.0（標準）	1.2	1.4
大地震時の耐震性能	耐力の割増しにより、構造体はほとんど損傷しない。	耐力の割増しにより、構造体はほとんど損傷しない。	免震装置によって揺れを吸収するため、構造体はほとんど損傷しない。
大地震時の揺れ	制振形式、免震形式に比べて大きい地震力の衝撃を構造躯体で受け止めるため、什器への影響が大きい。低層建物の場合、上階の揺れの増幅は少なくなる。	耐震形式よりも揺れを低減し揺れも早くおさまる。衝撃を緩和する。耐震形式に比べ、什器への影響は小さい。	免震層でほとんどの地震力の衝撃を受け止め、上部構造はゆったりとした揺れとなり、什器への影響が少ない。高層建物の場合に特に利点大きい。
スケジュール	3つの構造の中で、設計から建設完了までのスケジュールが一番早い。	耐震構造に比べ、設計・申請・建設において時間を要する。	耐震構造に比べ、設計・申請・建設において時間を要する。

\*耐震を1.0とした時の比較、条件・規模によって変動有

## 新庁舎の設備

### (1) 新庁舎に求められる防災機能

災害によりライフラインが途絶えた  
場合においても、災害対策本部機能  
や市民生活に影響する行政サービス  
機能の維持が可能となるBCP（業  
務継続計画）に対応します。

### (2) 新庁舎の環境負荷機能

国の「2050年カーボンニュート  
ラルの実現」に向けた省エネ対策の取  
組みや、国土交通省の「官庁施設の  
環境保全性基準」、SDGs の理念  
を踏まえた庁舎としての建設を目指  
し、再生可能エネルギーの積極的活  
用、汎用性の高い材料や設備機器の  
選定等による維持管理のしやすさへ  
の配慮、運用時の省エネルギー化に  
効果的なシステムの導入や建材の使  
用を検討し、建物全体の環境負荷の  
低減を目指します。

### (3) 執務作業効率化

執務環境は経済性を追求しながら、  
空気環境・温熱環境・明るさ環境の  
快適性を、年間を通して省エネ・環  
境に配慮した計画とします。  
オフィス什器レイアウトに合わせた  
設備計画により、組織改編等に柔軟  
に対応できるフレキシブルな執務室  
とします。快適な執務環境を整える  
ことで作業の効率化を図ります。

#### 防災機能についての検討例

・耐震性が高い電気設備、給排水設備等の建築設備の採用を検討します。  
・非常時のBCP（業務継続計画）に対応できる自家発電設備等の設置を  
検討します。

#### 環境負荷低減機能についての検討例

・SDGs（持続可能な開発目標）の理念や脱炭素に配慮した庁舎とします。  
・ライフサイクルコストを通じた環境負荷の低減に配慮した環境配慮型庁舎とします。  
・本市の気候風土を踏まえた、自然採光や自然換気を活かし、電力消費を抑え  
た明るく快適な環境を整えます。  
・日射や熱負荷に配慮した計画を検討し、内部の空調効率を高めます。  
・費用対効果を検討しながら ZEB Ready や CASBEE 認証同等の性能を目指します。



#### 執務作業効率化についての検討例

<b>空気環境・空調方式の検討</b> 待合スペース、執務室、議 場は省エネ性能が高い空調 方式を採用します。	<b>照明・明るさ環境の検討</b> 省エネ性と快適性を両立した 光環境を実現するため、方式 の比較を行い検討します。	<b>温熱環境の検討</b> 自然採光・自然換風を活用 できるエコアイテムを費用 対効果を含めて検討します。
従来型オフィス照明 全体的に明るい 机上・通路やバック ヤードですべて750lx	タスクアンビエント照明 アンビエント照明 タスク照明 必要な局所に適切な 明るさを確保 タスクアンビエント照明の場合	間接的に光を取り入れる エコボイドによる明るい執務室の場合